

プライバシー権について

2012.1.3～

プライバシー権は安全権に属するが（人権学参照の事）、安全権とは己を含む財産の安全性を確保するべくより大いなる安全を要求実現する権利であり、人権の中核を成す。安全であればあるほど財産の価値は増し安心する。プライバシーとは安全空間とそれを使用する時間である。ここでの安全空間とは他の干渉を許さない、他者の意識から隔絶された空間を意味する。つまりプライバシーを有するとは、隔絶された空間とそれを使用する時間を所有しているという事で、動物には一般的にプライバシー権は認められない。何時天敵に襲われ捕食されてしまうのかと安心などない。百獣の頂上に位置する動物類ですらも子供時代はひ弱であり、金銭目的の人間に襲われてしまうかもしれない。動物園に来れば食べられる心配は無いが、監視される事になるのでやはりプライバシーは彼らに存在しない。かなり広大な土地で自由を与えられている保護動物の様な場合でも、餌を与えられかつ天敵に教われる不安も少ないが（当然人間も乱獲出来ない）、長期に渡ってモニタリングされるし卵等も勝手に持って行かれるのでプライバシーは存在しない。

他の干渉を許さない、他者の意識から隔離された空間とは他者の五感からの隔絶である。触覚から絶しているなのでその内部に入られ触られない。味覚から絶しているので捕食されない。嗅覚から絶しているので臭いから存在を認識されない。聴覚から絶しているので音から存在を認識されない。視覚から絶しているので形体から存在を認識されない。人間距離が十分であれば即ち他者までの空間が十二分だとプライバシーを保つのに物質的な境は必要ない。街中での生活の様に互いに密接しているような状況だと物質的な境界が必要になって来る。つまりは住居、密室性である。隣に料理内容が匂いによって全て伝わってしまうような構造、防音効果が極めて低い壁のアパート、庭が隣家と接し塀も無い場合、これらのプライバシー性は低い。また鍵が壊れていて容易に侵入出来る家など防犯性が低い場合も同様である。隣家から生活空間内を見られてしまう場合、こちらのプライバシーも無いと同時に隣は不快を感じるだろう。話し声が聞こえる場合も同様、こちらのプライバシーも無いが隣はうるさくて眠れないかもしれない。タバコの匂いがそれを吸わない隣人を煩わす。プライバシー権に対して慎重になる、安全空間の創出に積極的になる事は周囲との関係構築改善にとっても重要である。

個人情報もプライバシーというが、興信所等で合法的に調査依頼出来るけれど、今日ではインターネット上にも気軽に記入する。しかし秘密事項であるから、例えが悪いが昨日不倫相手と何処何処へ行ったという事柄は秘密性が高く要求され、経歴などはより緩やかなプライバシーである。どちらも時間であり密室性が要求されている。住居に関して、其の空間は真に安全かと考えた場合そうではない、泥棒が巧妙な手口で侵入するかもしれないし、境界を何かしらで破壊すれば密室は崩壊するので絶対的に安全ではない。安全性

を高めるとは、それに対してより多くの財産を支出するか或は時空間の短縮である。プライバシーを隠している場所が小さくなればなるほど見つかりにくいし又時間が短い程その間のプライバシーは保たれる。

* 宗教を信奉する者の大多数は、私の神は見通しであると主張する。しかし他人から見通しでは不快であるから通常は人にもプライバシーが要求されるし、これが政教分離である。旧約聖書を引用すれば、陰部を葉で隠した（プライバシーの目覚め）人間は安全なる神の園から追放された、と読める。

財産権の箇所では、特に神に根拠を求める必要も無く、政教分離と矛盾しないと述べた。己の財産を神からの頂き物、託された物と考えたと財産処分権は己と信奉する神に存ずる。他者からは自己所有財産は隔絶されるが（他人に処分権がないが）、プライバシー権のように神とは隔絶されない。そのような場合、神託によって自己財産が移動する事になるが、己以外の他人を通じての神託であったならば、客観的な証拠の提示は一般的に不可能であり、不可能と言い切る事無く、つまり神の威力によって他者を通じた自己確認し得る神託が万が一に存在する場合を留保しても、それが滅多に起こる事ではない事に異論はないだろうから事後の例外扱いでよいし、又は当事者間の合意の問題であるので、万人が有する権利としては無視出来すべきであり、故に己を通じた神託のみを考慮すればよい訳であるから、結局己の決定であるので民主主義、政教分離と矛盾しない。

安全であるからこそ楽しい。子供が公園で遊んで楽しんでいるが、それは安全性が保障されているからこそであって、予めその公園で遊ぶとかなりの確率で誘拐される事が分かっているなら楽しくない。ましてや公園が地雷地帯であったら何も楽しくないだろう。たとえ危険を冒して得た快樂物であってもそれを安全空間に持ち帰りたいと欲するのは、動物的な本能と言えよう。

* 天国は安全で楽しい所、地獄は危険で恐ろしい所というのが宗教に共通して見られる。

（仏教）等活地獄

八大地獄の第一。殺生罪を犯した者が墮ちるといわれ、五体を裂かれて粉碎されるが、涼風が吹いて元の身体となり、再び裂かれる苦しみを繰り返す。

広辞苑より

つまりプライベート空間とは楽しい所。安心感から開放感が生まれる。密室的であり開

放的であり非日常的ですらもあり得る。心地よい良質なプライベート空間からは芸術作品の傑作も生まれ易いものだ。密室性と芸術は関連が深い。例えば、良いと思っていた音楽が広く皆の知る所になると其れに飽きてしまう、というのは有り勝ちな話である。

プライベート空間が劣悪な場合、プライベート空間に著しい欠陥がある場合、甚だしくは奴隷の様に所有していない場合は快樂性は乏しい。